



段ボールの鳥居をくぐる子どもたち

筑後市・粟島神社

がに 居カに 鳥ニ レプリ ミニ

くぐると健康、安産

「女性や子どもがくぐると健康になる、子宝に恵まれる」と伝わる筑後市羽犬塚の粟島神社にあるミニ鳥居の段ボール製レプリカが完成した。幅41センチ、高さ35センチの実寸大だが、重量はわずか約20キロ。イベントなどで活用し、筑後観光をPRする。

筑後市観光協会が市内の段ボール製造業、九州ダンボールに制作を依頼。同社

はこれまで実寸大段ボール製SLや、大人が乗っても壊れない段ボール製木馬などを手がけている。今回も外観をそっくりにして強度を保つ一方、鳥居上部の笠木には段ボール断面の波形状が見えるようデザインを工夫した。

粟島神社境内で5月26日、神事と近くの保育園児によるくぐり初め式を実施。子どもたちは元気よく鳥居をくぐり抜けていた。同社の高山政和会長(65)は「今後も段ボールを使い地域に貢献していきたい」と話していた。

ミニ鳥居レプリカは、17日にHAWKSベースボールパーク筑後で開かれるウエスタン・リーグ公式戦の市協賛試合「筑後市デー」のイベントで一般に初お目見えする。(床波昌雄)